

田中康夫の



125

「横浜花博」

「日本・横浜発『グリーンシネイ』の発信 SDGsの達成に貢献」を掲げ、2027年3月19日から9月26日まで開催予定「国際園芸博覧会 GREEN×EXPO

瀬谷工場だった東京ドーム52個分の在日米海軍上瀬谷通信施設跡地が予定地。相模鉄道で横浜駅から瀬谷駅まで21分。更に「上瀬谷」入口まで直線距離で2km、実質徒歩30分。接取時に毒ガス弾8852本存在と米軍資料に記され、現在も砲弾が発見される場所です。

返還された「上瀬谷」242haの45%は沖縄「軍用地主」事情と同じ民有地。徒歩30分「猛暑下」の代替交通手段も不透明な「計画経済」を遂行すべく、「ふるさとの特徴である谷戸景観を留める数少ない川」と横浜市HPが記す和泉川の源流、ホテルが舞いコウノトリやトキが飛来する水田を埋め立て、横浜市道の通称「海軍道路」の桜並木242本も伐採中です。

2027」はBIE博覧会国際事務局の認定博覧会。

グリーン博、環境博と百家争鳴状態で愛称すら定まらぬ「横浜花博」は旧日本軍第二海軍航空廠

の稲葉延雄会長も協力会員に名前を連ね、会期半年間で有料入場者数1000万人以上を謳います。

フロリダのマジックキングダム、カリフォルニアのディズニールランド・パークに次ぐ集客数世界第3位のユニバーサル・スタジオ・ジャパンは半年間に800万人。東京ディズニールランドが755万人。東京ディズニールシーが620万人。何れも修学旅行・遠足等の学校団体適用入場券も加算した上での昨年実績です。

須藤浩之社長が日本新聞協会理事の「神奈川新聞」は昨年12月25日付で「期待と不安が交錯する上瀬谷」を特集。「今は『大阪』が矢面に立たされているが、いずれは『横浜』も標的になりかねない」。関係者が異口同音に漏らす懸念を耳にするたび、園芸博に付きまとう『悩ましさ』を感じた。

PR施策によって認知度が高まれば高まるほど、否定的な見方も広まっていくのではないかというジレンマだ。関西万博には強烈な逆風が吹きすさんでいる」と。

中村敦夫参議院議員と共に「愛・地球博」開催予定地を訪れ、「万博に名を借りた里山を破壊す

る宅地開発計画」とBIEから批判を受けた2005年日本国際博覧会のあり方を抜本的に改めるべき、と神田眞秋愛知県知事に県庁舎で提言したのは長野県知事就任半年前2000年3月10日。

トヨタ自動車の奥田碩会長や「中日新聞」も同様の危機感を抱き、既に供用の「愛知青少年公園」へ主会場を変更し、600haの里山と森林の「海上の森」を保全。年間入場者数を180万人と手堅く見積もる愛知県が事業主体ジブリパークは主会場跡地に誕生。量の拡大ならぬ質の充実が奏功して海外からの来園者が3割。

他方、3月に横浜市が発表した市民5000人調査の「花博」認知度は「よく知っている」2・5%、「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」8・3%。

「聞いたことがあるが、内容はよく知らない」37・3%、「まったく知らない」50・8%。因みに上瀬谷跡地の北半分は三菱地所と「テーマはこれから考える」年間来場者1500万人テーマパーク「基本協定」を締結。ブルー・ライト・ヨコハマの小舟は大時化の中で揺れ続けています。

★次号10月号の発行日は9月27日(金)です。